

仏法に触れる合宿50年目

真宗光明団 年1回「青年部会」



浄土真宗の教えから生き方を学び続ける宗教法人「真宗光明団」(広島市西区庚午北)の青年部会が、50年目を迎えた。30歳代までの一般市民を主な対象に合宿方式で年1回開き、仏法に触れながら日頃の悩みや思いを語り合う。思い通りにならない現実をどう受け止め、社会を生き抜いていくか。3泊4日で寝食を共にし、それぞれが自らの生き方を問い直した。

(桜井邦彦)

悩みや思い語り指針得る

節目の青年部会は、大型連休中の3〜6日に同団本部であった。「職場での待遇に格差があつて、就労支援施設に通いながら仕事を探している」。車座になつた4日の座談では6人が順番に、近況や社会への思いを口にした。

「人と比べない」

周南市出身で東京都足立区の広井沙和さん(34)は、光明団の活動に熱心な両親の影響もあり、高

車座になって思いを語り合う青年部会の参加者

(4日、広島市西区)

校時代から青年部会に加わる。同じように親を縁に参加する若者が多く、座談の輪に顔なじみも多い。

「就職活動で失敗も成功もした。今も子育てで、ちょっととした悩みはある」と言う広井さん。「壁にぶつかりそうなき、今の自分を周りの人と比べないで生きる教えを思い出している。仏法のおかげで自分を見詰められる」とほほ笑む。

大学教授の本木伸さん(47)大阪府茨木市は「人をうらやましく思ったり、欲に迷つたり。社会の中で自分の足元を見失いがちになる。この場所に来ると、生きていく方向に気付かされる」。今もOBとして座談に参加し続けている。

真宗光明団は、小学校教師だった念仏者の住岡夜晃(1895〜1949年)が19年に設立。広島、山口、島根、岡山県

のほか関東や関西などに27支部がある。会員は約420人で一般市民が大半。本部では月1回の例会や、年3回の長期講習会を開く。

青年部会の始まりは65年。大学生たち20歳代の会員が「高校生や大学生が学べる場」を率先して作った。浄土真宗の僧侶や学識経験者を講師に招いて教えを学び、座談で語り合う形は今に引き継がれているという。

ことしは壮年層を含む約40人が参加。毎朝の勤行と講義、座談のほか、胎児の出生前診断を特集したテレビ番組を全員で見、命についても意見を交わした。講師は元中学校教師の寺岡一途さん(63)福山市で、講義では人生での学びの意味などを説いた。

縁の広がり願う

自らも真宗光明団に長

年関わり、教えを学び続けてきた寺岡さんは「仏法は若いときに聞け」という言葉がある」と強調。「仏法は、競争社会の中で分別という殻に閉じ込められた若者の心を開いて、人とつながって生きる平等な世界に気付かせてくれる。若者が現実を受け止めて生きる力になるはず」と部会を通じた仏縁の広がりを願う。

昨年に続いて部会の世話役を務め、自らも参加した僧侶の岡本大志さん(36)広島市安佐南区は「一人一人が抱える身近な悩みを持ち寄るからこそ、部会で仏法を身近に感じることができると話す。「私も子どもの将来への不安など、思うようにならない悩みがある。それでも、いろんな問題と真摯に向き合っている参加者の声を聞き、頑張ろうと勇気が湧いてきた」